



日本糖尿病・肥満動物学会 NEWS LETTER

Vol.19 No.1 June 2015

1) 号頭言 (寺内康夫先生、門脇孝先生).....	1・2
2) 第29回 日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会を終えて (稲垣暢也先生).....	3
3) 「糖尿病、肥満動物に関わる実験手法について」(7).....	3
インスリン分泌のイメージング法 (青柳恭太先生、永松信哉先生)	
4) 第30回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内.....	4
5) 若手研究奨励賞を受賞して (8) / 平成27年「日本糖尿病・肥満動物学会」学会賞各賞受賞者報告.....	5
6) 平成26年事業・会計報告.....	7
7) 平成27年事業計画、予算.....	9
8) 平成27年・平成28年役員名簿.....	10
9) 日本糖尿病・肥満動物学会会則 / 賛助会員名簿.....	11

号頭言 1

「日本糖尿病・肥満動物学会の一層の発展に向けて」

寺内 康夫

横浜市立大学大学院医学研究科分子内分泌・糖尿病内科学

2015年2月、京都において開催された日本糖尿病・肥満動物学会学術集会期間中の臨時理事会において、門脇孝前理事長の後を引き継ぎ、2015-16年度の理事長に選出されました寺内康夫です。1987年1月、「日本糖尿病動物研究会」として発足した本学会は、2007年2月、「日本糖尿病・肥満動物学会」へ改称いたしました。創立者であり、初代会長の後藤由夫先生、2代目会長の金澤康徳先生を中心とする先輩の先生方の御尽力により発展してきた頃から、私は学術集会にて毎年のように研究成果を発表させていただく機会に恵まれました。また、3代目理事長の門脇孝先生が引き継がれ、学術団体としての学会活動をさらに大きく発展させた時期においては、理事・評議員として学会運営に関わらせていただきました。

我が国の糖尿病モデル動物を用いた研究は、研究会として発足当初の頃からの自然発症糖尿病モデル動物を用いた研究に加え、遺伝子改変糖尿病モデル動物を用いた研究が大きく花開いています。その過程で、糖尿病動物研究のリーダーとして国際的にも活躍してこられた先輩の先生方に加え、中堅・若手の優秀で熱意のある糖尿病動物研究者も数多く育ってきました。そうした中堅・若手研究者に本学会の評議員・理事として加わっていただき、学会の基盤をさらに強固なものにしていきたいと思っています。

本学会の歴史を振り返ってみますと、日本のみならず

世界全体の糖尿病患者の急増している現代においては、糖尿病とその合併症の病態・治療に関する基礎研究が重要であり、動物モデルという個体を用いた研究が糖尿病学の発展、社会への貢献に果たした役割は大きかったと言えます。また、2011年の東日本大震災においては多くの実験動物も被災し、東京電力管内で実施された計画停電のために、動物実験施設の縮小・閉鎖が余儀なくされた現実を直視し、災害に強い動物実験施設や動物実験のあり方に関して建設的な提言をしてきました。さらに、2013年には将来検討ワーキンググループを立ち上げ、日本の糖尿病・肥満動物研究を一層活性化させるために必要なことを議論し、若手、女性、地方在住の研究者のための研究環境整備にも取り組んできました。

私はこれまでの会長・理事長が中心となって進められた研究の流れを継承し、学術団体としての学会活動をさらに推進するとともに、産業界や社会に向けた活動も視野に入れ、糖尿病学の更なる発展に貢献したいと考えております。

以上、これまでの歩みに学びつつ、学会を支えている多くの会員の皆様と一緒に、多くの新しい試みも意識的に取り入れながら、本学会を益々発展させるために努力していきたいと考えています。本学会を支える各分野の研究者、臨床医、実験動物あるいは製薬関連企業の研究者など、学会員の皆様のご協力を何卒よろしくお願いいたします。

「理事長退任にあたって」

門脇 孝

東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科

このたび日本糖尿病・肥満動物学会の理事長を退任することになりました。私は平成18年2月9日より、本学会の前身である日本糖尿病動物研究会の会長に就任しました。日本糖尿病動物研究会は初代会長を後藤由夫先生、第二代会長を金澤康德先生が務められ、私は金澤先生から世代交代ということで第三代会長としてバトンタッチされました。まず最初に着手したことは、日本糖尿病動物研究会の学会化です。本会の更なる発展と、会員および関連領域研究者の研究活動の活性化に資するため、平成19年より日本糖尿病動物研究会から日本糖尿病・肥満動物学会へ改称し、学会となりました。この時に学会名の中に「肥満」を入れたのは、当時から本会の中でも肥満やメタボリックシンドロームの研究が活発になっていたからです。現在でも、肥満動物に関する研究は大変活発に行われています。私は研究会の会長から引き続き学会の理事長に就任し、以来、約8年間の任期に亘り、理事長を務めました。

理事長としてまず行ったのは学会賞の創設です。これは学会の根幹である研究活動の活性化、特に若手研究者の育成を目的としたものでした。平成20年より以下の学会賞を設立しました。後藤賞：永年に亘り本会の指導的役割を果たし、本会の発展に顕著な貢献をされた名誉会員1名に贈呈。学会賞「米田賞」：学術業績が卓越し、かつ指導的立場で学会活動に精励されている本会会員1名に贈呈。研究賞：優れた研究業績をあげられ、且つ学会活動に精励されている会員1名に贈呈。若手研究奨励賞：年次学術集会で40歳以下の会員による優れた発表演題から選考し、本会会員で原則として5名以下に贈呈。また、研究活動の活性化のために、糖尿病・肥満動物研究に携わる研究者のために、既存の「糖尿病・肥満モデル動物一覧表」(和文、英文)や測定試薬キットの毎年の改訂作業に加え、平成24年に会員を対象に実施した「疾患モデル動物一覧表」ならびに「糖尿病・肥満動物試薬リスト」アンケート調査の結果を踏まえ、飼料リストを新規に作成し、ホームページを充実させました。その結果、会員をはじめ多くの研究者より関心を持っていただき、アクセス数が平成18年理事長就任時約7万PVから約18万PVに増加しました。このような活動を通じて会員数は、平成18年理事長就任時の230名から2014年10月末現在324名に増加しています。

また、実験動物の倫理規定の制定も行いました。さら

に、平成23年3月11日に発生した東日本大震災における実験動物施設の飼育環境調査アンケート調査を実施し、最も被害が大きかった岩手、宮城、福島やその近県地域の実験動物施設(大学や製薬企業など)を対象に、被害状況を把握し今後の対策のためのアンケート調査を行いました。

私は理事長就任時から、本学会を支える次世代の研究者が育ってきた段階で早めにバトンタッチしたいと考えていましたので、そのことを念頭に本学会を次世代へ引き継ぐための更なる活性化と若手研究者の育成等を目的として平成25年に「日本糖尿病・肥満動物学会将来計画ワーキンググループ」を発足させました。寺内康夫常務理事(当時、現理事長)を委員長とし、メンバーは若手研究者、女性研究者、基礎研究者を中心に構成しました。このワーキンググループでは今後の学会活性化の方策を立案して頂きました。

自然発症の糖尿病・肥満動物に加えて、遺伝子操作による糖尿病・肥満動物はヒトの糖尿病や肥満のモデルとしてその成因解明や新規治療法開発に欠くことのできない研究手法であり、その重要性は今後益々増大していくことは、疑いありません。従いまして、本学会の存在意義についても益々重要性を増していると確信しています。寺内康夫理事長を中心として本学会の更なる発展を大いに期待しています。終わりに、私と二人三脚で学会運営を助けて頂きました八木橋操六前副理事長、運営にご協力頂きました理事、評議員の皆様、事務局を努めて頂きました窪田直人先生(現理事)、また学会運営を支えていただいた全ての会員の皆様に深く感謝し、理事長退任の挨拶といたします。

臨時理事会報告

平成27年2月14日に行われました「臨時理事会」におきまして、理事長、副理事長、常務理事を選任し、以下のように決定いたしましたので、ご報告申し上げます。

理 事 長:寺内 康夫

副理事長:中村 二郎

常務理事:池上 博司、稲垣 暢也、森 豊

第29回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催を終えて

稲垣 暢也

京都大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌・栄養内科学

第29回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会を2015年2月13日(金)、14日(土)の両日、京都大学医学部構内の「芝蘭(しらん)会館」にて開催させていただきました。55演題の一般演題をお寄せいただき、284名の参加のもと、盛会裏に会を終えることができました。これもひとえに本学会会員ならびに関係者の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。

特別講演1では、京都大学大学院生命科学研究所の西田栄介先生より「寿命と組織恒常性の制御機構」、特別講演2では京都大学医学研究科の長田重一先生より「細胞膜の非対称性とその崩壊」について、先端的な研究成果のご講演をいただきました。シンポジウムでは、「モデル動物を用いたインスリン分泌研究」および「モデル動物を用いた肥満・インスリン抵抗性研究」と題し、本学会のメインテーマにスポットを当てた最新の研究内容について新進気鋭の各セッション5名のシンポジストにご発表していただき、大変活発な討論が繰り広げられました。

今回の学会は、学生の参加者が40名を超えるなど次世代を担う若手研究者の参加ならびに発表が多かったこ

とも大きな特徴でした。一般演題の中から14題が「若手研究奨励賞」に応募いただきました。大変優れた演題ばかりで僅差の選考となりましたが、最終的に5名の演者が受賞されました。さらに、学生セッションには大学院生だけではなく学部学生からの応募もあり、8名の演者がトラベルグラントを受賞されました。

本学会は一つの会場で発表を行うことにより、全員で発表を聞くというのが特徴です。若手の演者にとりましては緊張感も高まるかもしれませんが、講演会場はもちろんのこと、懇親会場やロビーでも常に活発な議論が展開されましたことは、お世話をさせていただいたものにとりまして何よりの喜びでありました。特に若手研究者が先輩の研究者から温かいアドバイスを得られる貴重な機会に恵まれましたことは、これからの糖尿病・肥満動物研究、および本学会のさらなる発展を強く期待させるものであったと思います。

最後に、第29回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会の開催にあたり、多くの方々からのご支援ならびにご協力を賜りました。心より御礼申し上げます。

糖尿病、肥満動物に関わる実験手法について 7

インスリン分泌のイメージング法

青柳共太 永松信哉

杏林大学医学部生化学教室

膵β細胞は血糖に応じて細胞内Ca²⁺濃度が高まるとインスリン顆粒に内包されたインスリンを開口放出機構により細胞外へと分泌する。インスリン分泌はインスリン顆粒膜と細胞膜のドッキング過程、インスリン顆粒がCa²⁺感受性を獲得するプライミング過程、そしてCa²⁺依存的に細胞膜とインスリン顆粒膜が融合する過程などいくつかの素過程が連続的に起こる非常にダイナミックな過程である。

イメージング技術を用いてこれら一連の過程を解析するためには、GFP融合プレプロインスリンを発現させてインスリン顆粒を特異的に可視化する必要がある。一方、マウス膵β細胞内にはおよそ9000個のインスリン顆粒が

存在するが、血糖依存的に分泌されるインスリン顆粒はその中的一部分であることが知られている。従って9000個のインスリン顆粒を全て観察するよりも分泌過程にあるインスリン顆粒のみを選択的に観察し、解析した方が効率的に詳細な解析が可能となる。そのために一連の分泌過程が起こる場所である細胞膜近傍のみを選択的に観察することが可能な全反射型蛍光(Total Internal Reflection Fluorescent: TIRF)顕微鏡を用いる。TIRF顕微鏡では細胞を培養したカバーガラスに対し、光が全反射する角度で励起光を照射する。すると微視的にはカバーガラスの反対側の数十～数百nmの範囲にごく微弱な光がエバネッセント光として染み出すことが

知られている。このエバネッセント光をGFPの励起光として用いることにより、膵β細胞内に存在する多数のインスリン顆粒の中からカバーガラスに接着した細胞膜近傍に存在するインスリン顆粒のみを選択的に観察することが可能となる。またTIRF顕微鏡観察ではエバネッセント光で照明される範囲が非常に限局されているため、共焦点顕微鏡観察に比べて分泌過程にあるインスリン顆粒の挙動を単一顆粒レベルで詳細に観察することも可能となる。

インスリン分泌は様々な因子により精密に制御されているが、各インスリン分泌制御因子が分泌過程のどの段階をどのように制御しているのかを明らかにすることは、

インスリン分泌不全を成因とする2型糖尿病の病態解明に重要である。インスリン分泌のイメージング技術はインスリン分泌の素過程を直接観察し、解析することを可能とするものであり、インスリン分泌の制御機構を明らかにする上で欠かせない技術となっている。

第30回 日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会の案内

日 時：平成28年(2016年)3月11日(金)～12日(土)

開催地：大宮ソニックシティ「市民ホール」

〒330-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5 ソニックシティビル4F

TEL：048-647-4111 URL：<http://www.sonic-city.or.jp/>

会 長：栗田卓也(国際医療福祉大学病院 糖尿病内分泌代謝科教授)

プログラム内容

30周年記念講演：3月11日(金)

演者：金澤康徳(自治医科大学名誉教授)

門脇孝(東京大学糖尿病・代謝内科教授)

特別講演：3月12日(土)

演者：宮園浩平(東京大学分子病理学分野教授)

シンポジウム①：3月11日(金)

「自然発症モデル動物：糖尿病・肥満研究への貢献と将来展望」

シンポジウム②：3月12日(土)

「遺伝子改変動物：糖尿病・肥満研究への貢献と将来展望」

お問い合わせ先：

●主催事務局

国際医療福祉大学病院 糖尿病内分泌代謝科

〒329-2763 栃木県那須塩原市井口537-3

●運営事務局

株式会社コンベンション・ラボ

〒252-0143 神奈川県相模原市緑区橋本6-4-12 吉川ビル4F

TEL：042-707-7275 FAX：042-707-7276

E-mail：jsedo30@conventionlab.net

若手研究奨励賞を受賞して ⑧

脂肪細胞における遠位エンハンサーを介したPPAR γ によるC/EBP α 遺伝子の転写制御機構の解析

青山 倫久

東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科

この度は第29回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会におきまして、若手研究奨励賞をいただき誠に光栄に存じます。学術集会会長の稲垣暢也先生をはじめ、選考委員の諸先生方、学会関係者の方々に心より御礼申し上げます。また、日頃よりご指導頂いております門脇孝教授、山内敏正准教授、脇裕典特任准教授をはじめ、研究室内外の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

本研究で我々は、脂肪細胞分化において現在まで不明であったPPAR γ によるC/EBP α 遺伝子の転写制御機構の解明を、ChIP-seqによるゲノムワイドなPPAR γ 結合領域の解析や、3C法による核内でのゲノム領域間の3次元的な近接関係の解析などにより試み、既存的手法では明らかでなかったC/EBP α 遺伝子の下流に存在する機能的な複数の遠位エンハンサーを同定し、転写制御において遠位エンハンサーとプロモーターのヒストン修飾やクロマチン構造、遠位エンハンサー・プロモーター間のクロマチンループのダイナミックな変化が関与することが示唆されました。

今回の受賞を励みに、今後一層の精進と研鑽を重ねる所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

脂肪酸結合タンパク5 (FABP5) はK細胞における脂肪誘導性GIP分泌の制御に関与する

渋谷 公尊

京都大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌・栄養内科学

この度は、第29回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会におきまして若手研究奨励賞を戴き、誠に光栄に存じます。御選考いただきました諸先生方に厚く御礼申し上げます。また、日頃よりご指導頂いております山根俊介先生、原田範雄先生、稲垣暢也教授をはじめ、教室の先生方に深く感謝申し上げます。

発表させていただいた研究では、インクレチンを分泌する腸管内分泌細胞の一つであるK細胞のマイクロアレイ解析により見出された脂肪結合タンパク5(FABP5)のGIP分泌における作用を明らかにすることを目的としました。

今回の研究により、FABP5がK細胞における脂肪誘導性GIP分泌に関与すること、脂肪誘導性GIP分泌に胆汁の存在が重要であること、およびFABP5がGIP依存性に

食事誘導性肥満における脂肪蓄積に関与していることが明らかになりました。今後FABP5のK細胞における機能の詳細について検討できればと考えております。今回の受賞を糧とし、さらに精進と研鑽を重ねて参りたいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

糖尿病合併非アルコール性脂肪性肝炎における血糖とインスリンによる肝細胞癌発症機序の解明

添田 光太郎

東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科

この度は第29回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会において若手研究奨励賞を賜り、誠に光栄に存じます。また、学会長の稲垣暢也先生、御選考頂いた諸先生方に心より御礼申し上げます。

糖尿病による癌リスクの上昇については高血糖や高インスリン血症の関与が推定されていますが、高血糖と高インスリン血症は多くの場合に共に出現する上に、ヒトにおける発癌過程をよく模倣する動物モデルが少なく、両者を区別して論ずることが容易ではありませんでした。そこで私達は遺伝子非改変の糖尿病合併NASH・肝癌モデルマウスの血糖値、血中インスリン濃度を薬剤で調節し、糖尿病合併NASH・肝癌の病態への高血糖とインスリン作用の影響を検討しました。発癌率は意外にもインスリン投与によって有意に低下しており、肝癌発生母地であるNASHの組織で既に癌の代謝の特徴が認められ、インスリン投与により緩和されていました。今後はさらにそのメカニズムを明らかにしたいと考えております。

最後に、ご指導頂きました植木浩二郎教授、門脇孝教授をはじめ共同研究者の皆様方に心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みとしてさらに精進しますので、ご指導、ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

肥満における細胞接着・接触による肝臓代謝制御機構と病態生理的意義

土屋 恭一郎

東京医科歯科大学医学部附属病院糖尿病・内分泌・代謝内科

この度は、第29回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会におきまして若手研究奨励賞を頂きましたことを大変光栄に存じます。年次学術集会会長の稲垣暢也先生をはじめ、選考委員の先生方に厚く御礼を申し上げます。

これまで私は、代謝異常による血管内皮機能障害および動脈硬化症の発症・進展機序に関する研究に従事して参りました。研究テーマの発展として、血管内皮機能障害が動脈硬化症の端緒となることに加えて、内皮細胞が分布する臓器そのものの機能調節にも関与する可能性を

明らかにしたいと考えておりました。今回の発表は、肥満に伴う肝臓への炎症細胞の浸潤において、類洞の最内層に位置する類洞内皮細胞との接着が促進的役割を果たしていることを示すものです。加えて、肝実質内に浸潤した炎症細胞が肝細胞の細胞接触シグナルNotchを介して糖代謝異常を惹起している可能性を示しました。今後、個体レベルの追加検討を中心に、更なる病態の解明を進めるとともに治療的展望を探りたいと考えております。

今回の受賞を励みとし、更に精進をさせて頂く所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。

肝臓特異的な脂肪酸合成酵素の欠損は*ob/ob*マウスの脂肪肝と耐糖能を改善するが随時高血糖を惹起する

八木 孝

国立国際医療研究センター研究所糖尿病研究センター分子代謝制御研究部
日本医科大学大学院生体機能制御学

この度は、第29回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会におきまして、若手研究奨励賞に選出して頂き、大変光栄に存じます。学会長の稲垣暢也先生をはじめ、

選考委員の先生方に心より御礼申し上げます。また、日頃よりご指導をいただいている松本道宏先生や大学院の指導教官である南史朗先生をはじめ共同研究者・研究室のメンバーの皆様にも心より感謝申し上げます。

インスリン抵抗性を有する肝臓では糖新生の亢進とともに内因性脂肪酸合成の増強による肝臓への脂肪蓄積が亢進します。脂肪酸合成酵素 (FAS) は内因性脂肪酸合成の鍵となる酵素であり、肥満・2型糖尿病の肝臓ではその発現が亢進していることが知られています。今回、肝臓特異的FAS欠損*ob/ob*マウスを用いた検討から、本病態において肝臓でのFASの発現亢進は、脂肪酸合成・糖新生・脂肪酸酸化経路に多面的に作用し、絶食-摂食サイクルにおける血糖値の変動を軽減するバッファーとして、糖代謝の恒常性維持に寄与することを明らかにしました。

今回の受賞を励みに、今後一層の精進と研鑽を重ねる所存ですので、今後ともご指導のほど何卒よろしくごお願い申し上げます。

平成27年「日本糖尿病・肥満動物学会」学会賞各賞 受賞者報告

平成27年2月13日の「第29回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会」(京都府開催)における平成27年日本糖尿病・肥満動物学会「後藤賞」、「学会賞「米田賞」」、「研究賞」、「若手奨励賞」の各受賞者については以下の通りです。

本年の学会賞各賞につきましても募集を行う予定でありますので、会員の皆様のご応募、御推薦をお待ちいたしております。詳細につきましては、後日、当会のホームページ (<http://jsedo.jp/>)にてご案内させていただきます。

- 特別功労賞「後藤賞」：島 健二 名誉会員(川島病院名誉院長)
「Obesity and NIDDM-lessons from the OLETF rat」
- 学会賞「米田賞」：稲垣 暢也 会員(京都大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌・栄養内科学教授)
「モデル動物を用いたインクレチンおよびインスリン分泌に関する研究」
- 研究賞：窪田 直人(東京大学医学部附属病院糖尿病・代謝内科 病態栄養治療部准教授)
「発生工学的手法を用いた2型糖尿病・肥満の分子機構の解明」
- 若手研究奨励賞
 - 青山 倫久 会員(東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科)
「脂肪細胞における遠位エンハンサーを介したPPAR γ によるC/EBP α 遺伝子の転写制御機構の解析」
 - 渋谷 公尊 会員(京都大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌・栄養内科学)
「脂肪酸結合タンパク5(FABP5)はK細胞における脂肪誘導性GIP分泌の制御に関与する」
 - 添田 光太郎 会員(東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科)
「糖尿病合併非アルコール性脂肪性肝炎における血糖とインスリンによる肝細胞癌発症機序の解明」
 - 土屋 恭一郎 会員(東京医科歯科大学医学部附属病院糖尿病・内分泌・代謝内科)
「肥満における細胞接着・接触による肝臓代謝制御機構と病態生理的意義」
 - 八木 孝 会員(国立国際医療研究センター研究所糖尿病研究センター分子代謝制御研究部
日本医科大学大学院 生体機能制御学)
「肝臓特異的な脂肪酸合成酵素の欠損は*ob/ob*マウスの脂肪肝と耐糖能を改善するが随時高血糖を惹起する」

平成26年事業報告 (平成26年1月1日～12月31日)

1. 庶務関係報告

1) 会員の動向 (平成26年12月31日現在)

●会員数 (総数 319名、平成25年末総会員数318名)

正会員

平成25年末会員数	226名 (うち休会会員4名)
平成26年新入会	14名
学生会員から移行	2名
学生会員へ移行	-1名
退会者	-18名
正会員現在数	223名

学生会員

平成25年末会員数	56名
平成26年新入会	15名
正会員から移行	1名
正会員へ移行	-2名
退会者	-9名
学生会員現在数	61名

団体会員

2社 (平成25年末会員数 2社)

賛助会員

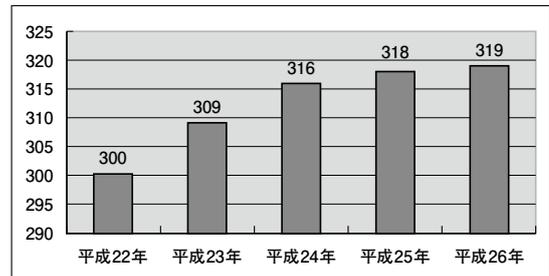
平成25年末会員数	19社 (25口)
退会企業	-1社 (-1口)
	(日本たばこ産業株式会社)

賛助会員現在数 18社 (24口)

名誉会員

15名 (平成25年末会員数 15名)

会員推移 平成22年12月～平成26年12月 (5年間)



3) 諸会議

●常務理事会

第1回：平成26年1月30日

(於：東京ステーションコンファレンス(東京))

第2回：平成26年8月5日

(於：東京ステーションコンファレンス(東京))

第3回：平成26年11月16日

(於：東京ステーションコンファレンス(東京))

●理事会

第1回：平成26年2月14日

(於：宮崎市民プラザ(宮崎))

●評議員会

第1回：平成26年2月14日

(於：宮崎市民プラザ(宮崎))

●総会

第1回：平成26年2月15日

(於：宮崎市民プラザ(宮崎))

●産学協議会

第1回：平成26年2月15日

(於：宮崎市民プラザ(宮崎))

2. 会計関係報告

1) 平成26年会計報告 (平成26年1月1日～12月31日)

科目	金額	摘要
収入の部		
1. 平成25年繰越金	6,793,358	
2. 会費収入		
平成26年会費		
正会員	935,000	5,000円×187名
学生会員	57,000	1,500円×38名
賛助会員	1,250,000	50,000円×19社(25口)
団体会員	20,000	10,000円×2社
他年年会費(平成23～25年分)		
正会員	115,000	5,000円×23名
学生会員	19,500	1,500円×13名
3. 助成金	1,000,000	鈴木万平糖尿病学国際交流財団
4. パナー広告収入	240,000	1社掲載
5. 寄付金	827,775	第28回年次学術集会
6. 雑収入(預金利息)	153	
収入合計(A)	11,257,786	
支出の部		
1. 印刷費		
ニュースレター編集・印刷費	259,200	Vol.18, No.1, No.2(2回分)
挨拶状コピー代	145,162	会費請求、総会案内状、封筒増刷
2. 会議費	628,362	会場費、交通費
3. 通信費	90,739	切手代及び発送代等
4. 学会運営補助金	1,000,000	1) ニュースレター 2) 年会費請求、総会案内状等
5. 事務用品費	0	第29回日本糖尿病・肥満動物学会
6. 旅費交通費	145,890	事務局出張費(宮崎)
7. 名簿管理・事務代行費(株創新社)	320,400	毎月：21,000円×1～3月 毎月：21,600円×4～12月
8. ホームページ維持・管理・更新費(株創新社)	257,400	年次学術集会月：63,000円×1ヵ月
9. 学会賞関連	766,433	毎月：21,000円×1～3月 毎月：21,600円×4～12月
10. 振込手数料	29,358	平成26年学会賞
支出合計(B)	3,642,944	
次期繰越(A)-(B)	7,614,842	

3. 年次学術集会関係報告

1) 第28回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会

会 長：中里 雅光 (宮崎大学医学部内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野)

会 期：平成26年2月14日・15日

会 場：宮崎市民プラザ

参加人数：164名

発表演題：特別講演 2題※、会長講演 1題、学会賞「米田賞」受賞講演 1題、研究賞受賞講演 1題、ワークショップ 1テーマ4題、一般演題45題 (うち若手研究奨励賞応募演題17題、学生セッション 4題)、ランチョンセミナー 2題、イブニングセミナー 1題

※特別講演2は悪天候により中止となりました。

若手研究奨励賞受賞者 (5名)

伊藤 美智子 会員

(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科臓器代謝ネットワーク講座)

「NASHの病勢を反映する病理組織マーカー:hepatic crown-like structureの意義」

神野 歩 会員

(神戸大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌内科学)

「2型糖尿病感受性遺伝子GCM2は膵β細胞量の調節に関与する」

酒井 真志人 会員

(国立国際医療研究センター糖尿病研究センター分子代謝制御研究部)

「ヒストンアセチル化酵素GCN5による肝臓の糖新生調節機構の解明」

原 朱美 会員

(順天堂大学大学院代謝内分泌内科学)

「持続的高血糖は膵β細胞からPP細胞への分化転換を誘導する」

横田 繁史 会員

(自然科学研究機構 生理学研究所生殖・内分泌系発達機構研究部門)

「骨格筋AMPK活性の抑制はストレプトゾトシンによる糖尿病の代謝異常を改善する」

4. ニュースレター関係報告

Vol.18, No.1：平成26年6月30日発行 400部発行

掲載内容

- ・号頭言：箕越靖彦 会員
- ・第28回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催を終えて：中里雅光 会員
- ・第29回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内
- ・若手研究奨励賞を受賞して(7) (5名)
- ・糖尿病、肥満動物に関わる実験手法について No.5 ヒトの膵島の病理：水上浩哉会員、八木橋操六 会員
- ・平成25年事業・会計報告、平成26年事業計画、予算、学会賞各賞の受賞者報告について
- ・役員名簿、その他

Vol.18, No.2：平成26年11月15日発行 400部発行

掲載内容

- ・号頭言：泉哲郎 会員
- ・第29回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催にあたって：稲垣 暢也 会員
- ・第29回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内
- ・糖尿病、肥満動物に関わる実験手法について No.6 β細胞mass(量)の評価法：稲葉渉 会員、八木橋操六 会員
- ・その他

5. 「日本糖尿病・肥満動物学会」学会賞 関係報告

1) 受賞者一覧 (受賞日：平成26年2月14日)

●特別功労賞「後藤賞」:

堀田 饒 名誉会員 (中部ろうさい病院名誉院長)

「糖尿病性合併症の発症メカニズムの解明と治療法の確立」

●学会賞「米田賞」:

塩田 清二 会員 (昭和大学医学部第一解剖学教室教授)

「脳による摂食・エネルギー代謝調節」

●研究賞:

山内 敏正 会員 (東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科講師)

「肥満・糖尿病モデルマウスを用いたアディポネクチンとその受容体の健康長寿における意義の解明と治療法開発への応用」

2) 平成27年 各賞募集の実施

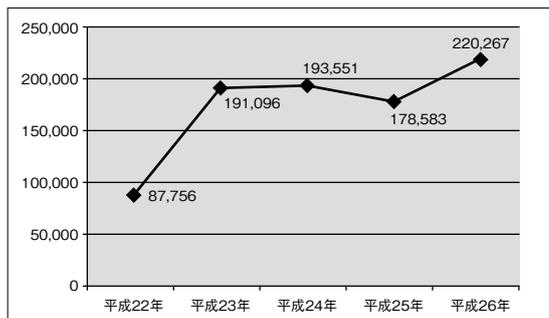
6. その他

1) ホームページについて

①ホームページアクセス数 (ページビュー)

1月	20,242	2月	23,275	3月	21,532
4月	18,007	5月	17,865	6月	17,026
7月	17,193	8月	17,298	9月	15,888
10月	18,861	11月	14,250	12月	18,830

アクセス数の推移 (平成22年～平成26年)



②メールアドレス登録者数

- ・正会員 223名 (登録数:メールアドレス有193名、無4名)
- ・学生会員 61名 (登録者:メールアドレス有44名、無0名)
- ・団体会員 2社 (登録者:メールアドレス有2名)
- ・賛助会員 18社 (登録者:メールアドレス有11社、無1社)
- ・名誉会員 15名 (登録者:メールアドレス有11名、無1名)

登録者合計 会員数 319名中

メールアドレス 有:264名、無:6名

メールアドレス登録回答なし:49名

③平成26年1月1日～12月31日 更新内容

- 1) 第28回、第29回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会の開催案内掲載
- 2) 平成27年学会賞各賞募集案内掲載
- 3) 「役員名簿」、「疾患モデル動物一覧表」、「糖尿病・肥満動物飼料一覧表」の改訂
- 4) ニュースレター Vol.17, No.2、Vo.18, No.1掲載

④その他

- 1) バナー広告募集の推進について
バナー広告掲載企業 1社 (㈱シバヤギ)
- 2) メール配信の実施 (更新案内など)
- 3) メールアドレス登録の推進
- 4) その他

2) その他

平成27年事業計画 (平成27年1月1日～12月31日)

1. 庶務関係
 - 1) 役員の改選
 - 2) 会員関係 会員の増強について
 - 3) その他

2. 会計関係
 - 1) 平成27年予算の施行

科 目	金 額	摘 要
収入の部		
1. 平成26年繰越金	7,614,842	
2. 会費収入		
平成27年会費		
正会員	1,115,000	5,000円×223名
学生会員	91,500	1,500円×61名
団体会員	20,000	10,000円×2社
賛助会員	1,200,000	50,000円×18社(24口)
平成26年以前会費未納者分収入	199,500	正会員33名、学生会員23名
3. 助成金	1,000,000	鈴木万平糖尿病学国際交流財団
4. バナー広告収入	240,000	20,000円×1社/1カ月
収入合計(A)	11,480,842	
支出の部		
1. 印刷費		
ニュースレター編集・印刷費	300,000	2回分(Vol.19, No.1, No.2)
挨拶状コピー代	100,000	会費請求、総会案内状、封筒増刷
2. 会議費	650,000	会場費、交通費
3. 通信費	100,000	切手代及び発送代等
		1) ニュースレター 2) 年会費請求、総会案内状等
4. 学会運営補助金	1,000,000	第30回日本糖尿病・肥満動物学会
5. 事務用品費	50,000	
6. 旅費交通費	100,000	事務局出張費(京都)
7. 名簿管理・事務代行費(株創新社)	324,000	月々：21,600円×12カ月 年次学術集会月：64,800円×1カ月
8. ホームページ維持・管理・更新費(株創新社)	259,200	月々：21,600円×12カ月
9. 学会賞関連	800,000	平成27年学会賞各賞
10. 振込手数料	30,000	
11. 予備費	200,000	
支出合計(B)	3,913,200	
次期繰越(A)－(B)	7,567,642	

3. 年次学術集会関係

第29回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会の開催

会 長：稲垣 暢也(京都大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌・栄養内科学)

会 期：平成27年2月13日・14日

会 場：京都大学医学部創立百周年記念施設「芝蘭会館」

4. ニュースレター関係

ニュースレターの発行(年2回発行とする)

5. 「日本糖尿病・肥満動物学会」学会賞 関係

平成28年学会賞各賞の募集の実施

6. その他

平成27年・平成28年 理事・監事・評議員 一覧

理事長 寺内 康夫
 副理事長 中村 二郎
 常務理事 池上 博司、稲垣 暢也、森 豊
 理事 栗田 卓也、泉 哲郎、小川 佳宏、窪田 直人、中里 雅光、竹ノ谷 文子、松本 道宏、箕越 靖彦、
 山田 祐一郎、綿田 裕孝
 監事 中村 昭伸、水上 浩哉

評議員

阿比留教生
 (長崎大学大学院医歯学総合研究科内分泌・代謝内科)
 栗田 卓也
 (国際医療福祉大学病院 糖尿病内分泌代謝科)
 池上 博司
 (近畿大学医学部内分泌・代謝・糖尿病内科)
 井上 郁夫
 (埼玉医科大学内分泌・糖尿病内科)
 石田 均
 (杏林大学医学部第3内科)
 泉 哲郎
 (群馬大学生体調節研究所遺伝生化学分野)
 伊藤 壽記
 (大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座)
 稲垣 暢也
 (京都大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌・栄養内科学)
 犬飼 浩一
 (杏林大学医学部糖尿病・内分泌代謝内科)
 植木浩二郎
 (東京大学大学院医学系研究科分子糖尿病科学講座)
 宇都宮 一典
 (東京慈恵会医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科)
 尾池 雄一
 (熊本大学大学院生命科学研究部分子遺伝学分野)
 小川 佳宏
 (東京医科歯科大学糖尿病・内分泌・代謝内科)
 小倉 淳郎
 (理化学研究所バイオリソースセンター遺伝工学基盤技術室)
 小野 啓
 (埼玉医科大学内分泌・糖尿病内科)
 影山 晴秋
 (桐生大学医療保健学部栄養学科)
 片桐 秀樹
 (東北大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科学分野)
 門脇 孝
 (東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科)
 亀井 淳三
 (星薬科大学薬物治療学教室)
 亀井 康富
 (京都府立大学分子栄養学研究室)
 神谷 英紀
 (愛知医科大学医学部内科学講座糖尿病内科)
 窪田 直人
 (東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科)
 小林 直哉
 (西大寺病院)
 左向 敏紀
 (日本獣医生命科学大学獣医学部)
 四方 賢一
 (岡山大学病院新医療研究開発センター)
 城石 俊彦
 (国立遺伝学研究所系統生物研究センター哺乳動物遺伝研究所)
 菅波 孝洋
 (東京医科歯科大学臓器代謝ネットワーク講座)
 杉本 一博
 (太田総合病院附属太田西ノ内病院糖尿病センター)
 竹ノ谷 文子
 (星薬科大学薬学部運動生理学教室)
 寺内 康夫
 (横浜市立大学大学院医学研究科分子内分泌・糖尿病内科学)
 富樫 優
 (横浜市立大学大学院医学研究科分子内分泌・糖尿病内科学)
 戸辺 一之
 (富山大学医学部第一内科)
 中里 雅光
 (宮崎大学医学部内科学講座神経呼吸内分泌代謝学分野)
 永松 信哉
 (杏林大学医学部生化学教室)
 中村 昭伸
 (北海道大学大学院医学系研究科内科学講座免疫・代謝内科学分野)
 中村 二郎
 (愛知医科大学医学部内科学講座糖尿病内科)
 成瀬 桂子
 (愛知学院大学医学部内科学講座)
 野田 光彦
 (国立国際医療研究センター糖尿病研究部)
 藤本 新平
 (高知大学医学部内分泌代謝・腎臓内科)
 堀尾 文彦
 (名古屋大学大学院生命農学研究科応用分子生命科学)
 益崎 裕章
 (琉球大学大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座)
 松本 耕三
 (京都産業大学生命科学部動物生命医科学科工学部生物工学科)
 松本 道宏
 (国立国際医療研究センター研究部糖尿病研究センター)
 水上 浩哉
 (弘前大学大学院医学研究科分子病態病理学講座)
 箕越 靖彦
 (自然科学研究機構生理学研究所発達生理学研究室系生殖・内分泌系発達機構)
 宮川潤一郎
 (兵庫医科大学内科学糖尿病科)
 森 豊
 (東京慈恵会医科大学附属第三病院 糖尿病・代謝・内分泌内科)
 山田研太郎
 (久留米大学医学部内分泌代謝内科)
 山田祐一郎
 (秋田大学医学部内科学講座内分泌・代謝・老年医学分野)
 山田 幸男
 (武田薬品工業株式会社医薬研究本部)
 和田 淳
 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学)
 綿田 裕孝
 (順天堂大学医学部内科学・代謝内分泌学)

日本糖尿病・肥満動物学会 会則

(名 称)

第1条 本会は日本糖尿病・肥満動物学会（英文では Japan Society of Experimental Diabetes and Obesity (JSEDO)）と称する。

(目 的)

第2条 本会は糖尿病・肥満動物の研究を通じて糖尿病をはじめ肥満、脂質異常症、高血圧症、動脈硬化などに関する学理および応用の研究についての発表、知識の交換、情報等の提供、啓蒙活動を行うことにより、医学、実験動物学、栄養学、薬学等の進歩をはかり、もってわが国における学術の発展と国民の健康増進に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学術集会等の開催
- (2) 会誌、書籍、資料等の刊行
- (3) 研究の奨励および研究業績の表彰
- (4) 国内外の関係学術団体との連絡および提携
- (5) その他、産学協議会の設置ほか当学会の目的を達成するために必要な事業

(会 員)

第4条 本会の会員は次の通りとする。

1. 正会員 本会の目的に賛同し、規定の会費を納入した個人
2. 学生会員 本会の目的に賛同し、規定の会費を納入した学生
3. 名誉会員 本会の発展に尽し、学術上顕著な功績のあった者で、理事会が推薦し、評議員会の議を経て総会で承認された者
4. 団体会員 本会の目的に賛同し、規定の会費を納入した団体
5. 賛助会員 本会の目的、事業を賛助する法人または団体

(入退会)

第5条 本会の会員になろうとする者は当該年度の会費を添えて所定の申込書を理事長に提出し、理事会の承認を得なければならない。ただし、名誉会員に推挙された者は入会の手続きを要せず、別に定める手続きを経、かつ本人の承諾をもって会員となるものとする。

2. 会員が退会しようとするときは、理由を付して退会届けを提出し、理事会の承認を得なければならない。

(会 費)

第6条 本会の会費は別に定める。

2. 名誉会員は会費を納めることを要しない。
3. 会費は前納するものとする。前納した会費はいかなる理由があってもこれを返却しない。

(資格の喪失)

第7条 会員は次の理由によって、その資格を喪失する。

(1) 退会したとき

(2) 禁治産若くは準禁治産の宣告を受けたとき

(3) 死亡し、若くは失跡宣告を受け、または本会が解散したとき

(4) 除名されたとき

(5) 会費を3年以上滞納したとき

(役 員)

第8条 本会には次の役員をおく。

理 事 10名以上15名以内〔うち理事長1名、副理事長1名、常務理事（庶務、会計、編集）〕

年次学術集会長 1名

監 事 2名

(役員の選任)

第9条 理事および監事は、理事会が正会員および賛助会員（登録者）から推薦し、評議員会の承認を得た上で、総会で選任する。ただし、賛助会員からの理事数は正会員からの理事数の3分の1を超えないものとする。

2. 理事は互選で理事長および副理事長、常務理事を定める。
3. 理事および監事は、兼務することができない。
4. 年次学術集会長は理事会が正会員の中から推薦し、評議員会の審議を経て、総会で選任する。理事は年次学術集会長を兼務することができる。
5. 監事は理事会において正会員の中から推薦し、評議員会の審議を経て、総会で選任する。

(役員職務)

第10条 理事長は本会の業務を総理し、本会を代表する。

2. 副理事長は理事長を補佐し、理事長に事故があるとき、または理事長が欠けたときは職務を代行する。
3. 理事は理事会を組織し、この規則に定めるもののほか、常務理事会からの提案事項その他を審議する。
4. 常務理事は理事長および副理事長とともに常務理事会を組織し、本会の実務にあたる。
5. 年次学術集会長は年次学術集会の会長を務める。必用に応じて常務理事会および理事会に出席して意見を述べるができる。
6. 監事は本会の業務および財産状況を監査し、これを理事会および総会に報告する。

(役員任期)

第11条 役員任期は2年とし、就任の時点で満65歳を超えないものとする。なお、再任を妨げない。ただし、年次学術集会長の任期は1年とし、再任は認めない。

2. 補欠または増員によって選出された役員任期は、前任者または現任者の残任期間とする。
3. 役員はその任期終了でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

(評議員の選任)

- 第12条 本会には評議員をおく。
2. 評議員は正会員の中から理事会が推薦し、総会の承認を得て、理事長が任命する。
 3. 評議員の任期は2年とし、就任の時点で満65歳を超えないものとする。なお、再任を妨げない。
 4. 評議員は評議員会を組織して本会則に定める事項を行うほか、理事会の諮問があった事項、その他必要と認める事項について助言する。

(会 議)

- 第13条 定期総会は毎年1回開く。ただし、理事会が必要と認めるとき、または正会員の5分の1以上の要請があったときは、臨時総会を開くことができる。
2. 総会は会員の5分の1以上（委任状を含む）の出席をもって成立する。
 3. 総会の議決は出席者（委任状を含む）の過半数をもって決する。

- 第14条 理事会は理事長が招集し、毎年1回以上開催する。理事長が必要と認めるとき、または理事の3分の1以上から理事会招集の要請があったときは、理事長は20日以内に招集しなければならない。
2. 理事会の議長は理事長とする。
 3. 理事会は理事現在数の3分の2以上出席しなければ会議を開き、審議することができない。
 4. 理事会の議事は出席理事の過半数をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

- 第15条 常務理事会は理事長が招集し、毎年3回以上開催する。理事長が必要と認めるとき、または常務理事の3分の1以上から常務理事会招集の要請があったときは、理事長は速やかに招集しなければならない。
2. 常務理事は庶務、会計、編集等の役割分担を行い、実務を行う。

- 第16条 評議員会は毎年1回理事長が招集する。
2. 評議員会の成立および議決等は理事会に準じて行う。

- 第17条 本会に産学協議会をおく。
2. 産学協議会は本学会と産業界を取り巻く問題に

ついて意見を交換し、本会の目的を達成するための研究奨励および事業等について提言する。

3. 産学協議会は理事長、副理事長、常務理事および賛助会員から選出された若干名のものによって構成する。
4. 産学協議会は理事長が招集し、毎年1回以上開催する。理事長が必要と認めるとき、または産学協議会委員の3分の1以上から産学協議会招集の要請があったときは、理事長は速やかに招集しなければならない。

(会 計)

- 第18条 本会の運営は会費その他の収入をもって充てる。
2. 本会に対する寄付金は理事会の決議を経て受理する。
 3. 本会の会計および事業年度は毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

(会則の変更)

- 第19条 本会則を変更するときは、理事会の議を経て、総会の承認を得るものとする。

(事務局)

- 第20条 本会の事務局は、株式会社創新社内に置く。

(付 則)

1. 本会則は平成19年2月10日より施行する。
平成20年2月9日 改定（第12条3項変更）
平成21年2月14日 同（第2条変更）
平成25年2月23日 同（第7条変更）
平成27年2月14日 同（第9条変更）
2. 本会の会費は次の通りとする。
正会員 5,000円
学生会員 1,500円
団体会員 10,000円
賛助会員 1口 50,000円
3. 現在の幹事11名は、全員日本糖尿病・肥満動物学会の理事とする。
4. 本会は、会則を新たにして、これまでの日本糖尿病動物研究会を日本糖尿病・肥満動物学会として継続するもので、平成19年2月10日現在の日本糖尿病動物研究会のすべての財産を受け継ぐものとする。

賛 助 会 員 (2015年6月現在)

アステラス製薬株式会社、株式会社アニメック、EPS 益新株式会社、小野薬品工業株式会社、株式会社三和化学研究所、塩野義製薬株式会社、株式会社シバヤギ、第一三共株式会社、大日本住友製薬株式会社、大正製薬株式会社、武田薬品工業株式会社、田辺三菱製薬株式会社、日本エスエルシー株式会社、日本クリア株式会社、日本チャールス・リバー株式会社、ノボノルディスクファーマ株式会社、株式会社森永生化学研究所

日本糖尿病・肥満動物学会

Vol.19 No.1 June 2015

発 行 日：2015年6月30日
 発 行 人：日本糖尿病・肥満動物学会理事長 寺内 康夫
 編 集 人：中村二郎（愛知医科大学医学部内科学講座 糖尿病内科）
 編集及び学会事務局：〒105-0003 東京都港区西新橋2丁目8番11号 株式会社 創新社
 TEL 03-5521-2881 / FAX 03-5521-2883
 URL <http://jsedo.jp/> E-mail info@jsedo.jp